

神奈川総合産業高校で職業人ガイダンスを実施 自衛隊の仕事や魅力を紹介

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 栗野晃光3等陸佐）は、7月4日（金）、神奈川県立神奈川総合産業高等学校で行われた『職業人ガイダンス』に参加した。

このガイダンスは、同校定時制課程1年生の授業「産業社会と人間」の一環として実施されたもので、地域のさまざまな業界で働く社会人が講師となり、それぞれの職業の特性や働くうえでの心構えなどを生徒に直接伝えることを目的としている。今回は自衛隊のほか、製造業や地方銀行の担当者も講師として参加した。

自衛隊からは、同校を担当する広報官・飯干心博2等陸曹が講師を務め、3クラス計35名の生徒に対し講話を行った。内容は、自衛隊の任務や災害派遣などの活動をはじめ、採用制度、処遇、福利厚生に至るまで多岐にわたった。飯干広報官は、自身の経験をもとに、高校生の頃に抱いていた就職への思いや、入隊当初は辞めたいと思っていたこと、それでも現在まで勤務を続けてこられた理由などを率直に語り、生徒たちにとって進路選択の参考となる時間となった。

講話後には、生徒から「自衛官になるための条件は？」、「自衛官になって良かったと感じたことは？」といった質問が寄せられたほか、「いろいろな仕事があるとは知らなかった」「女性が活躍するための環境が整っていると感じた」などの感想も聞かれた。中には「話を聞いて、自衛隊が就職の選択肢のひとつになった」という声もあった。

相模原地域事務所は、「生徒に直接説明できる貴重な機会をいただき感謝している。今後も、自衛隊という職業への理解が深まるよう、学校との連携を強化していきたい」としている。



座間駐屯地見学を実施

神奈川県横浜中央募集案内所（所長 狩野圭2等陸尉）は、7月16日（水）、陸上自衛隊座間駐屯地において部隊見学を実施し、募集対象者2名と広報官2名の計4名が参加した。

当日、参加者は広報展示室、昭和天皇防空壕跡、士官学校記念碑などを見学し、座間駐屯地の概要や歴史について説明を受けた。その後、現役自衛官である最優先上級曹長および陸士長3名との懇談が行われ、各職種の役割や日常業務、営内生活の実情など現場ならではの話を直接聞くことができた。

参加者からは「広報展示室で座間駐屯地の歴史を学ぶことができた」「施設科の仕事内容を知る良い機会となった」「営内生活の話から、意外に自由な時間があるなど有意義な情報が得られた」といった感想が寄せられ、防衛省・自衛隊への理解と関心が一層高まった様子だった。

横浜中央募集案内所は、「今後も自衛隊志願者の獲得に向け、若年層への継続的なフォローの重要性を認識し、自衛隊の業務を広く周知するためさらに努力を重ね、入隊者の確保に尽力していく」としている。

